

# 麦作情報 第5号

J A む な か た  
北筑前普及指導センター

## ◎気象概況

本年の麦は、生育期間中の高温の影響により出穂期が著しく早くなる見込みです。

大麦では、昨年に比べ5日～7日、平年に比べ10日～14日早く生育しています。すでに出穂しているほ場も見られます。4月には、穂揃期追肥や赤かび病防除など麦の品質を大きく左右する重要な管理作業があります。本年は播種時期やほ場の排水性の違いにより、生育が大きく異なっている為、生育に応じた適期作業、適期防除に努めてください。

## 1. 排水対策

出穂期以降の降雨は麦の登熟に大きく影響するため、排水対策は極めて重要です。もう一度排水溝の溝さらえや排水溝の連結等を行い、地表面や溝に水が溜まらないようにしましょう。

## 2. 施肥（小麦）

小麦では、タンパク質含有率が基準値の範囲内になるよう、必ず穂揃期追肥を行って下さい。また、1月～2月の降水量が多く肥料の流亡が予想されますので、追肥一発肥料のグッドIB506を施用されているチクゴイズミのほ場でも、葉色が薄いほ場では穂揃期追肥（硫安5kg/10a）を行いましょう。

なお、穂揃期追肥を行っても熟期が大幅に遅れることや倒伏することはありません。

### <粒状施肥の場合>

品 種	施 肥 時 期（予想）	施 肥 量
チクゴイズミ （タンパク質含有率） 目標 10%	穂揃期（出穂後2～4日後） ～穂揃期後7日まで  11月25日頃播種の目安 （3/24～4/4日頃）	硫安 10kg/10a 又は 尿素 5kg/10a
ちくしW2号 （タンパク質含有率） 目標 12%	12月10日頃播種の目安 （4/2～13日頃）	硫安 25kg/10a 又は 尿素 11kg/10a

※葉色が薄いほ場や莖数が多いほ場では、施用量を増やしてください。（+5kg/10a程度）

※播種が遅れたほ場でも必ず施用してください。

### <尿素的葉面散布の場合>

品 種	施 肥 時 期	施 肥 量
チクゴイズミ	赤かび病防除と同時散布 （1回）	尿素 5kg/10a
ちくしW2号	赤かび病防除と同時散布 （2回）	尿素 5kg/10a×2回

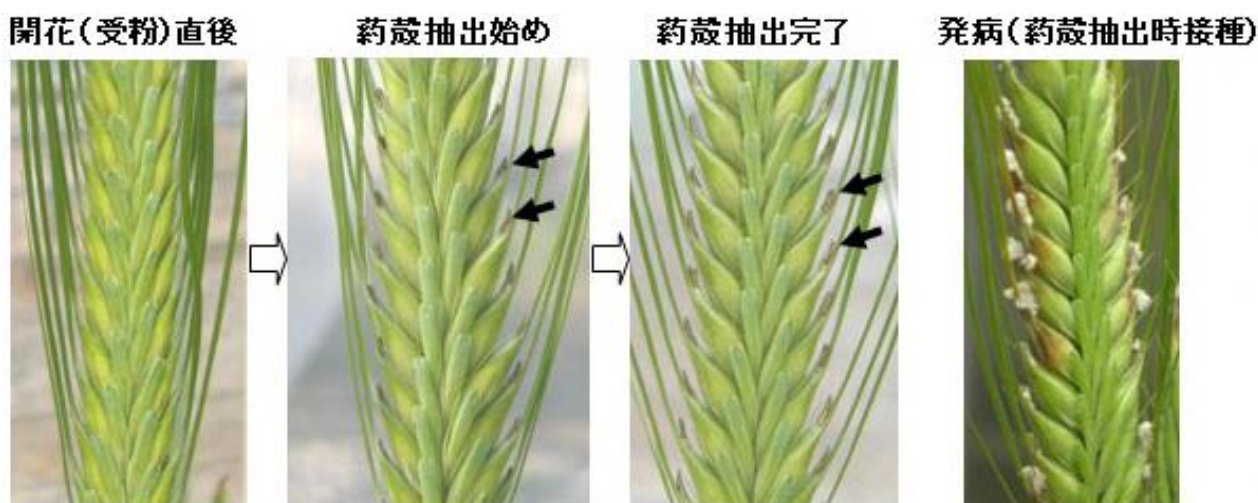
注1）高温時（25℃以上）に葉面散布を行うと葉焼け程度が激しくなる場合があるので、散布は涼しい時間帯に行い、展着剤は使用しないでください。

注2）散布器具が故障しないように、散布後は器具を良く洗いましょう。

### 3. 赤かび病対策

麦種	1回目の防除（※注1）		2回目防除（1回目の7日後）
大麦	出穂期 12～14 日後 <small>ヤクガラ</small> (薬殻抽出始め頃)	トップジン M 水和剤 1,000～1,500 倍 60～150ℓ/10a 散布 又は トリフミン水和剤 1,000～2,000 倍 60～150ℓ/10a 散布	トリフミン水和剤 1,000～2,000 倍 60～150ℓ/10a 散布
小麦	開 花 期 (出穂期 7～10 日後)	トリフミン水和剤 1,000～2,000 倍 60～150ℓ/10a 散布	トップジン M 水和剤 1,000～1,500 倍 60～150ℓ/10a 散布

※注1 大麦にトップジン M 水和剤を使用する場合は、収穫30日前までしか使用できないので、1回目の防除時期が遅れないようにしましょう。遅れそうな場合は収穫14日前まで使用可能なトリフミン水和剤を使用してください。  
大麦では出穂期以降、トップジンM水和剤の使用は1回しかできません。



大麦の防除適期！！

#### ★ 出穂期と防除時期の予測（11月25日頃播種の場合）

麦種名	品種	出穂期（予想）	1回目防除時期（予想）
大麦	ほうしゅん	3/22～25日頃	4/3～8日頃
小麦	チクゴイズミ	3/28～31日頃	4/4～10日頃
	ちくしW2号		

※1 2月中下旬播種の場合は、上表より3～4日程度遅れる。

(参考) 出穂期：全莖数の40～50%が出穂した日

穂揃期：全莖数の80%以上が出穂した日

※出穂とは止葉の葉鞘から穂先（芒「ボウ」は含まない）が現れたことをいう。

必ず、各ほ場の出穂期を確認してから防除計画を立て適期防除に努めて下さい。